

いもう 葦毛通信



ヤマラツキョウ

2026年2月26日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町三丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 182

1、世代交代のサイクル

葦毛湿原では個体数が減少し絶滅が危惧されるコオニユリ、ウメバチソウ、ホソバリンドウの3種類の植物に対して人工授粉を行ってきました。しかし、残念ながら個体数は減少傾向にあり、ウメバチソウは天然記念物指定地内では2023・24年は開花数がゼロになり、2025年の開花数は1輪のみでした。コオニユリやホソバリンドウはすぐに絶滅する状態にはないと思いますが、ウメバチソウは危機的な状況です。

コオニユリに関しては結実と種子散布状況を確認していましたが、ウメバチソウとホソバリンドウに関しては確認が十分ではありませんでした。コオニユリの結実と種子散布は順調に行われていたので、ウメバチソウとホソバリンドウも順調に行われていると思っていましたが、どうもうまくいっていなかったようで、確認不足でした。これからは、**1)授粉 → 2)結実 → 3)種子散布**の各段階を確認して、**世代交代のサイクルがうまく回っているか**を確認する必要があると思います。状況はすべての植物種が同じではないので、まず各植物種における問題点を明らかにする必要があります。

1) ホソバリンドウ

ホソバリンドウは葦毛通信 179号で人工授粉の状況を報告しました。ホソバリンドウは葦毛湿原でも数が少なく開花数は減少傾向にありました。葦毛湿原調査員と結実調査をしたところ、種子ができていないことがわかったので人工授粉を始めました。人工授粉を行った年に結実調査を行いました。結実したのは30%程度でした。しかし、種子散布が順調に行われているかは確認していませんでした。

2026年1月1日に確認したところ、果実の先端が開き種子が散布される準備が整ったものがありました。14日には多くの果実の先端が開き、中の種子はほとんど残っていませんでした。残った果実の果皮の一部を剥がして内部を観察したところ、種子は細長く長さ1.5mmほどで、種皮は薄い膜状をしていました。大きさは全く異なりま



ホソバリンドウの果実（2026年1月1日）



ホソバリンドウの種子（長さ1.5mm）

すが、形は細長く柳葉状でニワウルシの翼果に似ています。このような構造は種子を風で遠くに飛ばすためのものと思われます。

2) ウメバチソウ

ウメバチソウの開花と結実状況は葦毛通信 179 号で報告しました。ウメバチソウの果実は縦に4本の筋が見られるところから4心皮の蒴果で、乾燥して熟せば4つの果片に割れて種子が散布されると予想していました。しかし、12月1日には黄緑色で球形だった果実（葦毛通信 179 号4頁の写真参照）は、12月23日にはやや細くラグビーボール状（上段左写真）になり、2026年1月8日にはさらに萎びて細くなっていました（上段右写真）。裂果して種子が散布されると予想しましたが、まったくその兆候が見られないので、果実を刈り取り、果皮の一部を剥がして中を確認しました（下段左写真）。

すると、果実の中には多数の種子が詰まった状態でした。種子は長さが0.7~0.8mm、幅は0.5mm程しかなく、種皮が薄い被膜状で翼のある構造でした。種子は充実しているように見えますが、種子散布ができていないことが確認できました。採取した種子は現地に蒔き戻すつもりですが、種子に発芽能力があるのかを確認する実験も行う予定です。



ウメバチソウの果実（2025年12月23日）



ウメバチソウの果実（2026年1月8日）



ウメバチソウの果実内部（果皮を剥がした）



ウメバチソウの種子（長さは0.8mm）

3) イワショウブ

イワショウブも葦毛湿原では数を減らしています。イワショウブに関しては、開花数や個体数の計測は行ってきませんでした。2025年の開花は26花で、この2～3年でかなり減ってきたようです。結実すると赤くなりますが、赤くなった個体は2025年ではかなり少なく花は咲いても結実しない個体が多く見られました。2026年は人工授粉を行い、2025年に詳しく調査できなかった種子の結実と散布が行われているかを確認するつもりです。



開花状況一1 (2025年10月8日)



開花状況一2 (2025年10月30日)



結実状況 (2025年11月17日)



結実状況拡大 (2025年11月17日)

4) ヤマラッキョウ

ヤマラッキョウは2025年には葦毛湿原では3か所で31花が確認できました。2024年には3か所で60花が確認できていたので、開花数はほぼ半減しました。ヤマラッキョウは多くの小さな花が集まった集合花（上段左写真）で、雌蕊（めしべ）の基部に3個の子房があり（上段右写真）、これが成長して種子になります（下段右写真）。

2026年は2025年に詳しく調査できなかつた種子の結実と散布が行われているかを確認するつもりです。絶滅しそうになっている植物を守るためには、開花数の確認だけでなく、結実状況や種子散布が正常に行われているのか、順調に発芽するのかを確認し、「**世代交代のサイクルがうまく回っているのか**」を確認する必要があることがわかりました。



開花状況（2024年11月21日）



開花状況拡大（2024年11月21日）



結実状況（2025年12月17日）



結実状況拡大（2025年12月17日）